

1月14日(木) 18:30~20:30

会場：静岡県評会議室



第107回定例研究会

だれでも参加できます

韓国政党政治における 「直接行動」の意義と限界 —ろうそくデモと政党の変化を中心に—

報告者：安 周永 氏
(常葉大学法学部 講師)

これからの企画

- ◆ 第 108 回定例研究会
 - ・ 日時…2月18日(木) 18:30~
 - ・ 会場…静岡県評会議室
 - ・ 「労働条件の明示義務及び労働条件の変更」
報告者：加茂大樹 氏 (弁護士)
- ◆ 第 109 回定例研究会
 - ・ 日時…3月17日(木) 18:30~
 - ・ 会場…静岡県評会議室

代議制民主主義の危機と「直接行動」

日本、韓国、台湾においては、第二次世界大戦が終わり、保守政権が誕生すると、それは1990年代まで政権を握ってきた。三国ともに1990年代に入ってから政権交代が生じたが、その後再び保守政権が復帰した。興味深いことに、日韓台いずれの国においても、政府に対する大規模なデモが行われた。

韓国では2008年に大規模なろうそくデモが行われた。4月に牛肉輸入に対する抗議として始まり、106日間に93万人の参加者が見られた。この時のろうそくデモの特徴として、①一般市民の主導と市民団体のサポート、②インターネットとSNSの積極的な利用、③食の安全にとどまらず公共性の問題までの拡張が挙げられる。こうしたろうそくデモが政党政治に与えた影響は大きい。本報告では、韓国政治における直接行動による意義と限界を探る。